

韓国の土砂災害専門家による現場視察を実施

～紀伊山系砂防事務所～

平成29年11月17日に日本(東京)で開催される「日韓土砂災害防止技術会議」に先立ち、現場視察が紀伊山系砂防事務所管内で実施されました。現地視察では、那智川地区、赤谷地区、清水(宇井)地区における砂防施設整備状況や大規模土砂災害対策技術センターの調査研究活動等の取り組みを紹介するとともに、那智勝浦町長へ表敬訪問し、被災地域の実態についても知って頂きました。

韓国の専門家からは「日本では現場での研究や啓発活動等、災害後の対策が行われていると感じた。最先端の技術や機器、対策状況などを見学することができてよかった。」と感想をいただきました。

※日韓土砂災害防止技術会議は、砂防行政・砂防技術に関する日本と韓国の2国間での技術協力の場として、平成14年以降ほぼ毎年開催されています。

日 時

平成29年11月14日(火)～15日(水)

場 所

紀伊山系砂防事務所管内
那智川 ⇒ 大規模土砂災害対策技術センター ⇒ 赤谷 ⇒ 清水[宇井]

参加者

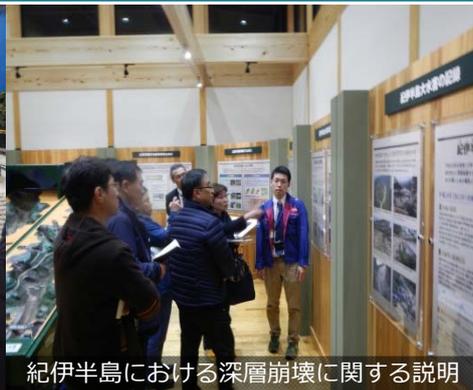
韓国の土砂災害専門家、政府担当者 計7名



11月14日(1日目) 金山谷川2号砂防堰堤⇒大規模土砂災害対策技術センター



那智川地区での対策状況を説明



紀伊半島における深層崩壊に関する説明



大規模土砂災害対策技術センター活動紹介

11月15日(2日目) 那智勝浦町長表敬訪問⇒赤谷地区⇒清水(宇井)地区



那智勝浦町長への表敬訪問



赤谷地区で対策状況を説明



清水(宇井)地区で対策状況を説明

【那智川地区】

Q: 那智川流域では濁度計を使った観測が行われているとのことだが、濁度計を使用した理由は何か。

A: 土石流の前兆現象である「川の濁り」を定量的に評価するため、比較的設置が容易な濁度計を採用した。

【赤谷地区・清水地区】

Q: 崩壊斜面の監視はどのように行っているのか。

A: 対岸にCCTVカメラを、斜面内には各種センサを設置し、変状が確認されれば自動で連絡される体制をとっている。